

母を送って

監査役

宮本洋子

年明けて早々に母が亡くなった。明治四十年生れの百五歳であった。天寿を全うしたとはこのことだろう。

三十八歳で未亡人となり、私たち四人の子育てをし、店から会社へと進展を成して来た母の人生を思うに、きびしいながらも充実した生涯であったと子の立場で振り返っている。

私も八十歳を迎え母と苦楽を共にして、離れて暮らしたことの無い日々を回顧している。大きく捉えて、母に甘えたり、又可愛がられたりした記憶は薄いのである。母は常に厳しく特に戦中戦後の生活は一変してしまい、家族五人生きていくのに精一杯だったのである。

昭和二十七年に母は「初代社長」となり亡くなる迄「会社のみんなは元気であるか」と気遣ってくれた。

そんな母に忘れられない思い出がある。小学校二、三年の頃であった。友達と学校の帰り道にある本屋さんに立ち寄って雑誌をみていると、奥にいた店主さんが厚くて高価そうな本を私に差しだ



した。そして「これを持って行きなさい、お金は後でいいから」と云う。ほんとうにいいのかなと思いつながら、立派な本を家に持ち帰ったのである。

母に経緯を話すと険しい表情になり「お前は本当にこの本が欲しかったのか。断れずに持って来たのではないか。」と説諭された。実際、雑誌のほう欲しかったので母が怖くて下を向いて黙ってしまった。すると、本当に欲しい本があったら云いなさい。でなければこの本はお店に返してきなさい。」とたたみ掛けられてしまった。

私はその足で二町内離れた本屋さんに返しに出かけたのであった。正直母の剣幕に押されてめそめそしながら返しに行ったのである。

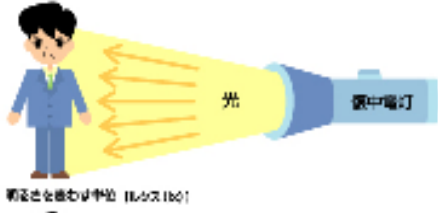
しかし、これ迄の人生で自分の意思が曖昧のまま人様に勧められて気持ちがぐらつく時には、あの日の母の言葉を思い出し、さらに慎重に当って来た様に思う。

要するに、周囲に振り回されず「自分の思い信念で行動しなさい」との教えだったと感謝の気持ちで母の厳しさを思い起こしている。

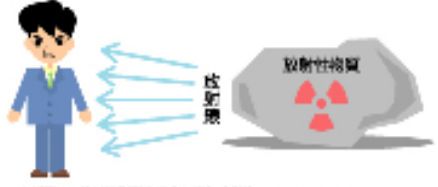
その母も最期は、私に甘えて帰らぬ旅人となって逝ってしまった。ありがとう」と天に向かい語りかけている。



放射能と放射線



初等電圧を電圧計で測定 (100V)



人が受けた放射線量を測定 (5-μSv/h)

放射線計の
→
表示値を電圧計
で測定 (100V)

放射線計の出力
(放射線)
→
放射線量を電圧計
で測定 (5-μSv/h)

に思う

日の展会、おれ様でした。

場は年りなかつたですが展会前日、大

があつたにもかからず来ていたお様には感謝です。

回の は未の大と言われている。だけで

はなく大もきました。

そこで、大変されているのがの子です。

日の でと という言葉をく にします

がこの二つが うと言うことは でしょうか

「 」とは から 出される のこと。

「 」とは を出す のこと。 を出すものを

「 」というそうです。

中 に える、 は 中 から 生ずる であり、

は 中 が 時 当たりに 出る () で

あり、 は 中 を 生

さる 中 そのものと

いえます。

り

気なく いてる言葉で

すが いが分かつて

を ていると り分かる

うになるのではないでし

うか。

あるので にも 子の

を が

に子のことを えてみてはいかがですか にもく
の の が してきています。 人 人が出来ることを
えまらずは に かけてみては



の

洋

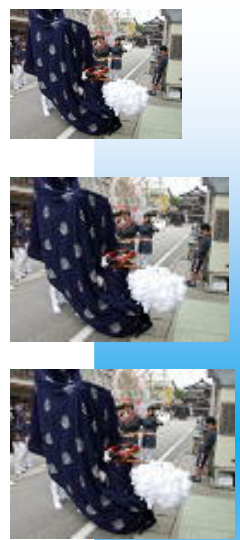
の といえ七 。 年は当町内 町の 年会長を
に めることが出来、また大きな なく大変 か
つたと思います。

正 から を重、 会、そして役 めに
の変 な る はありますが会 みんなで しい
なに り町内の 々に感謝しています。

町の七屋 は、 成16年に屋 から り変え しいも
ので んりの 語りもその時変えました。

また、 の である 周の子も長年の に
い、 りに ずり子として するため たに す
る話があり、来年の七 にお する で していま

す。
時代から ある を 代へ していくのも当の
であり、楽しみの一つです。



改めまして櫻田です。この会社に入社してあっという間に4ヶ月が過ぎました。毎日が勉強の日々です。初めのうちは慣れない仕事に緊張ばかりしていて、検針や配送、器具の取り付けに行ってお客さんと会っても、何を話したらいいか分からず挨拶だけをして、あとは他の人の話を黙って聞いているだけでしたが、今では慣れてきてお客さんと笑顔で世間話が出来るようになり、自分が変わったのかなと思います。

話は変わりますが先日、販売2種業務主任者の代理者講習と検定を受けてきました。ガスの仕事は初めてなので単純に考えていましたが、自分が想像していたよりガスの世界は沢山の決まり事があり、販売や設置についても事細かく決まりがあり驚いています。まだ、同じ部署の人には迷惑を掛けてばかりですが、現場で習った事、講習で教わって来たが無駄にならないように、今後の自分の仕事に活かして、正確・安全でお客様から喜ばれる仕事が出来るように努力していきます。



は
め
ま
し
て

経
子

はめまして。年の一から経にめさて、くになりました。といえます。う、しくおいたします。

社日りに、ささていただくになりました。れないで、前もからない、お客様を前にして、つてばかりですが、にけてもらいながら、日なんとかをこなしています。

はとにかく、話がいと言うのが最初のでした。日、のい、の話がからりき、とすと、さん話中なんてこともありました。

ののい私は話にでも、返にってしまいます。ある話で、「々おちけますか」と言うこと

い、たん「って言れた時は、うしうかと思いましたが、さん、話をもつて、話中だったのです。場からの話でいであるが、それからというもの話に出るが、怖くなってしまうました。

のなと、てききとした動きにいつもしてしまいます。そして、しいながらも、和かな困気があり、にを教えてきありがとうございます。

これから、でもささていただくになりました。で学んだを活かして、私も早くさんのになれるうに、りたいと思います。



編集後記

高橋まゆみ

今回原稿を寄せてくださいました皆様、ありがとうございました。
2011年3月11日 東日本大震災、そして福島原発。多くの方の尊い命が奪われ、甚大な災害となり、日を追うごとに被害の大きさに驚くばかりです。亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被害にあわれた方にお見舞いを申し上げます。震災に伴い各部でも通常の業務以上の多忙が続いたとお聞きしました。お疲れさまです。被災地以外でも厳しい状況になっています。今後も色々な方面に波及があると思不安ですが、そんな事ばかりは言っていられません！今できることをやらなければ！いろんなところで踏ん張ってみましょう！
次号は、鈴木部長、板垣部長、菅原孝一さん、瀬賀正史さんをお願いします。